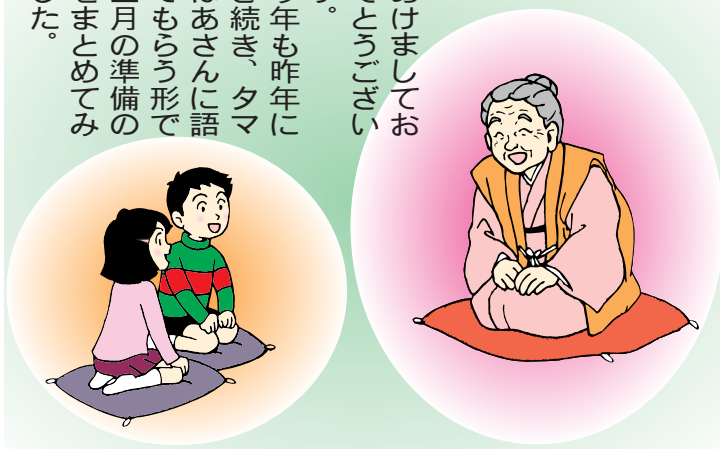
個性ある五人の孫のかたる夢
かなえやりたし初春の願ひに　江頭　一子

こだいら ちょっとむかし

あけましておめでとうございます。

今年も昨年に引き続き、タマおばあさんに語ってもらう形でお正月の準備の話をまとめてみました。



お餅つき

お正月の餅はね、昔はどこの家でもうちでついたんだよ。もち米を一俵（約60キログラム）ぐらいはつくからね、十臼以上にもなるんだよ。自分のうちの人だけじゃあ手が足りないでしょう、だから近所や親せき、何軒かで手伝って、何日はどこの家、次はどこって、順番に餅つきをしたの。

二十九日は九餅（苦持ち）と言って餅つきはしなかったから、二十五日から二十八日ぐらいまでが多かったね。

前の日から、蔵にしまってあった臼や杵、セイロ、大釜なんか出したり、うちは外でついたから、カマドを出したりしてね。そうそう、もち米も前の日には冷たい水で洗って、つけておかなきゃならないし、そりゃあ大忙しだったの。

その日の朝は、暗いうちから大釜で湯を沸かして、もち米を蒸し始めるの。

蒸しあがった湯気の立っているもち米を、大きな臼に入れて、最初は細めの杵で三人ぐらいでこねながらつき始めるの。仕上げは一人が大きな杵でつくんだけど、一回ごとに手水をつけて「手返し」をしたんだよ。

つきあがったお餅でね、まずお供え（鏡餅）を作ったの。たいていのうちは年神様、大神宮様、荒神様、稲荷様、その他にもいろいろな神様をまつっていたし、仏壇や蔵にも供えたから、大きなものから小さなものまで十組ぐらい作ったんだよ。

次についた餅はのし台でのばして、のし餅にするの。のし餅は次の日にちょうど切れるぐらいの硬さになるから、四角く食べやすい大きさに切りそろえるんだよ。

のし餅を何枚も作ってから、いよいよ楽しみにしてた辛味餅や自在餅を作るの。大根おろしにお醤油を入れ、つきたてのお餅をちぎりながらどんどん入れたのが辛味餅で、さっぱりしていて、いくらでも食べられるんだよ。

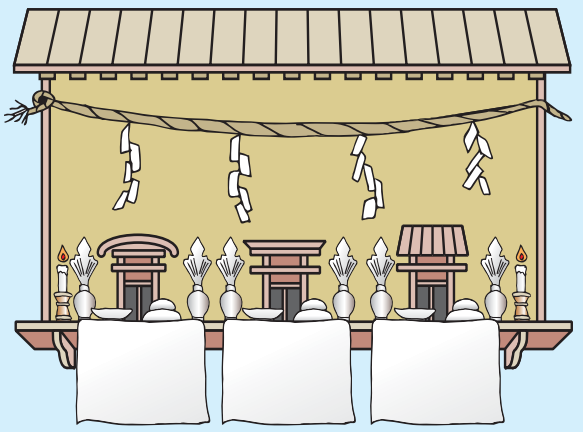
あんこをからめたのが自在餅で、甘くて本当においしかったよ。昔は甘いものが少なかったからね。それもおなかいっぱい食べられるんだから、とっても楽しみだったの。

自在餅は、お重に詰めて手伝いに来てくれた人に持ってってもらったり、親せきに届けたりしたの。

うちでも毎年、他の家からもらったけど、あんこの味や、お餅の柔らかさが家ごとに違うんで、それも楽しみだったよ。家によっては大福みたいにあんを中に包む家もあったね。

今はいつでもお餅を買って食べられるけど、昔はお正月やひなまつり、七五三なんかのお祝いの時しか食べることがなかったから、本当に楽しみだったの。

正月飾り



新年には毎年新しい年神様をお迎えするんだよ。年神棚を作る家もあったけど、うちじゃ、大神宮様の神棚にいっしょにおまつりしたの。

お札や御幣は神社から毎年暮れになると届くんだけど、神棚のしめ縄は跡取りが家で作ったんだよ。神棚の大きさに合わせてね。このあたりじゃ、田んぼがないから、早くから、いい田藁（水稲の藁）を買っておいたの。

一夜飾りはいけないと言って、飾りつけはうちでは三十日にやっていたよ。

門松は今はどこでも見かけるけど、昔は飾る家が少なかったね。

府中に大国魂神社ってあるでしょ。その神様が八幡様にずっと待たされたから、「待つ（松）はきらい」って。だから松飾りはしないっていう家もあるよ。

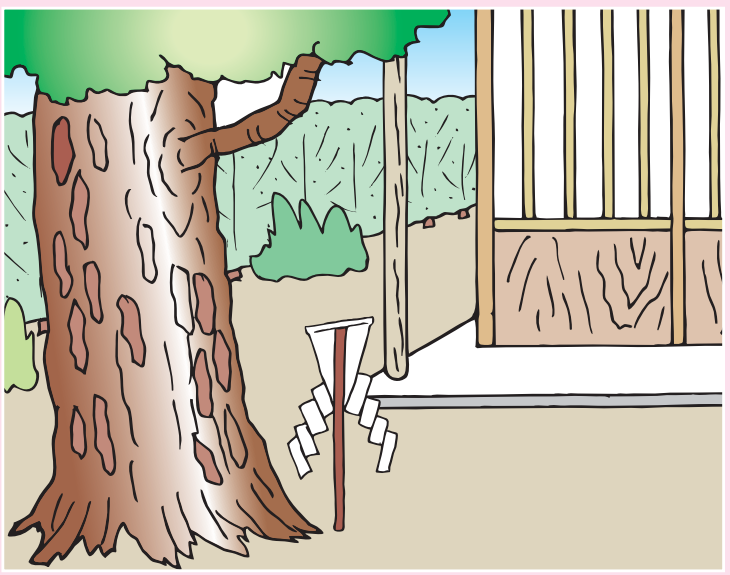
暮れの買い物

お正月には履き物や下着なんかも新しいものを用意するんで、暮れになると、毎年所沢まで買い物に行ったよ。所沢は古くからの町で、ここいら辺じゃ一番大きくて、店やが多かったからね。

府中には暮れの市がたってね、道の両側に露店がずらりと並んで、臼や杵、かご、着物、いろんなものが売ってて、あちこちからみんな買いに来るからそれはにぎやかだったよ。

昔は所沢や府中へも歩いて行ったんだよ。遠かったけど、そんなことちっとも苦にならないぐらい楽しみだったの。

頭っぱらい



大晦日の夜に、お正月の準備がやっと終わったら、頭っぱらいをやるの。晦日っぱらいとも言うけど。

家族が年の順に座ると、父親が頭っぱらい用の幣束で、小さい子から頭の上をさっさとはらっていくの。その年についた厄を落として、新しい年をお迎えしようっていうことなんだろうね。

家によっていろいろなやり方があってね、父親じゃなくて、一番小さい子がやる家もあるんだよ。めいめいが自分で自分の頭をはらう家もあって、幣束は手渡ししないで、わざと足元に落として、次の人はそれをひろって自分の頭をはらうんだ。手渡しすると前の人の厄がついちゃうって言ってね。

はらい終わった幣束は、すぐ外に持っていって、門口の地面に差しておいたの。差しに行く時は、どんなことがあっても後ろを振り返ったらいけない。振り返るとせっかくはらった厄がまたついてきちゃうって言ってね。

今でも入り口に幣束をさしてある家を見かけるよね。

このようにして人々は心待ちにしていたお正月を迎えました。

タマおばあさんのお話、いかがでしたか？

ご感想を小平民話の会（高津☎042（343）6077）か広報広聴課まで、どうぞお寄せください。